

大林組の一般廃棄物最終処分場への取り組み

大林組は、広島市全域を対象とした一般廃棄物最終処分場「恵下埋立地(仮称)(第I期)」を建設しました。



施設名称	恵下埋立地(仮称)
施設分類	一般廃棄物最終処分場
埋立品目	焼却灰、家庭系・事業系不燃ごみ、不燃性残渣
埋立面積	110,000m ² (内、I期40,000m ²)
埋立容量	1,600,000m ³ (内、I期350,000m ³)
埋立期間	約30年間
供用時期	2024年度末開設予定
事業主	広島市
施工	大林・洋林・宮川建設工事共同企業体

特徴① 集中豪雨に対する土砂災害防止対策

当処分場の建設地は、国内でも有数の豪雨地帯であり、過去に大きな豪雨災害※に見舞われた地域であることから、多くの土砂・落石災害防止設備を整備しています。

※「平成26年8月20日豪雨 広島土砂災害」
(当時、観測史上最大の121mm/hの降雨を記録)

土砂・落石災害防止設備概要

- | | |
|---------------|--------------|
| ① 砂防堰堤 | ② 高エネルギー吸収柵 |
| 設置数量 : 11ヶ所 | 設置延長 : 約500m |
| 堰堤最大幅 : 47.0m | 高さ : 4.0m |
| 堰堤最大高 : 11.4m | |



特徴② 多重遮水構造による浸出水流出防止対策

多重の表面遮水構造で浸出水漏洩を防ぐとともに、万が一浸出水が漏洩した場合でも、貯留堰堤直下の鉛直遮水壁により地下水の拡散を防ぎます。

多重表面遮水構造

- 底面遮水構造: 二重遮水シート+ベントナイト混合土層
- 法面遮水構造: 二重遮水シート+高分子系自己修復マット
- 漏水検知 : 電気検知システム

地下水拡散防止機能

鉛直遮水壁: コンクリート地中壁+岩盤グラウト

鉛直遮水壁仕様

- ① コンクリート地中壁(GL-10m以浅)
構造: 重力式擁壁
- ② 岩盤グラウト(GL-10m以深)
構造: 幅5m、深さ15m~28m(不透水層根入れ: 2.5m以上)
難透水層(岩盤地盤)にある微細なクラックにセメントミルクを圧入し、遮水壁を構築。

